

学位論文審査の要旨

学位申請者	高村 愛 人間発達科学専攻 2015年度生		論文題目	青年期女子におけるfat talk生起の背景要因に関する実証的研究
審査委員	主査:	大森 美香 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副査:	菅原ますみ 教授		「否」の場合の理由
	副査:	坂元 章 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	今泉 修 助教		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	石丸 径一郎 准教授		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (人文科学)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph.D. in Psychology)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

fat talkとは、Nichterが2000年に提唱した概念であり、多くの女性が日常的に従事する体型や体重に関する会話を意味する。これまで、身体不満や食行動異常への影響が明らかにされてきたが、fat talk従事に関連する個人特性や背景について、さらなるエビデンスの蓄積が求められている。本研究は、日本の青年期女子を対象に、fat talkの社会的・心理的機能、fat talk生起と個人特性・状況要因の関連の解明を目的として行われ、補論を含む7つの研究から構成された。本研究を通して、以下のことが明らかになった:

1. 日本人女子においても日常的にfat talk従事がみられること、
2. 身体不満・瘦身理想の内面化・抑うつ気分・友人からの拒否回避欲求など、fat talk機能に関する個人内要因と、fat talk従事の予測的関連性があること、
3. 友人からの拒否回避欲求とfat talk従事の関連には、発達的変化があること、
4. 日常生活において、身体に関する注意が高まる状況(食事前後の時間帯、運動、洋服店、鏡を見る、体重測定、着替え、移動中)とfat talk生起が関連すること

審査委員会は、令和2年7月1日(月)、令和2年8月6日(木)、令和2年8月24日(月)の3回にわたり開催された。審査の過程で、fat talkという日本やアジアで先行研究が少ないテーマに対し、多様な研究手法により実証を試みたことが評価された。一方、とりあげられる概念の説明、論理性、分析の不十分さなどの課題が指摘された。申請者は、2度にわたり修正論文を提出し、審査委員の指摘に対する説明や修正を行い、それらが適切であると判断された。8月24日に実施された公開発表会では、発表や質疑の対応についても審査が行われ、質問に対する十分な対応がなされた。

審査委員会は、本論文の独創性、論文としてのまとまり、学術的意義を評価し、論文審査の結果を「合格」とした。お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の学位、博士(人文科学)、Ph.D. in Psychologyにふさわしいものと判断した。